

## ほくりく「食」と「農」の消費者ネット意見交換会（WEB）の概要

日時：令和5年1月19日（木曜日）

北陸農政局は、令和5年1月19日、ほくりく「食」と「農」の消費者ネット意見交換会（WEB）を開催しました。

以下、その概要についてご紹介します。



【主催：北陸農政局】



【開会挨拶する森下消費・安全部長】

開会にあたり、北陸農政局森下消費・安全部長から、「ほくりく「食」と「農」の消費者ネットの意見交換会は、北陸地域の皆さまからの意見の収集、情報の共有、各施策へのご理解をいただく非常に重要な場として位置づけています。農林水産省では、令和3年5月に「みどりの食料システム戦略」を策定し、持続可能な食料システムの構築に向け2050年までに目指すべき姿とそれに向けた取組みの方向を明らかにしました。このシステムは、生産者だけでなく、消費者の皆さまのご理解と協働のうえに実現するものと考えているところです。また、現在、農政の根幹であります「食料・農業・農村基本法」の検証と見直し作業を行っています。これらの概要について説明させていただき、皆さまからの率直なご意見等をお聞かせいただくようお願いいたします。

なお、本日は、生産者の堀井様に生産現場からの報告をお願いし、意見交換を行うこととしています。ご参加の皆さまの相互理解が深まりますとともに、今後の活動の足がかりになれば幸いです。」と挨拶しました。



【司会進行する受川消費生活課長】

議事に基づき、まず北陸農政局企画調整室長から「みどりの食料システム戦略等について」では、戦略策定の背景や目指す姿、消費段階での取組、消費者への意識づけ等について、「食料・農業・農村基本法の検証等について」では、農林水産業を取り巻く情勢の変化、農産物輸入の現状、食料品アクセス問題等について説明を行いました。

次に、新潟県で稲作、サクランボ、ナシ、ブドウ等を栽培し、にいがた有機農業推進ネットワーク設立の世話人であり、にいがたオーガニックフェスタ実行委員会の事務局長として有機農業の推進に指導的立場で活躍されている有機農業生産者の堀井氏を講師としてお招きし、有機農業に対する思いや有機農業を広める取組として生産者同士の交流・情報交換の実施、生産者と消費者との交流や大学・専門学校の学生との交流等を企画したイベント等の活動を紹介していただきました。

出席された皆さまから、多くのご質問やご意見等をいただきました。主なご質問等は以下のとおりです。

#### 【みどりの食料システム戦略及び食料・農業・農村基本法関係】

Q1 地域で農業をしていると食料自給率が非常に気になります。お米は余り、小麦（パンやめん）をたくさん食べている状況は、食料・農業・農村基本法の検証の論点になると思います。自給率を向上させるための具体的取組を教えてください。

A1 自給率については、国として、カロリーベースで45%を大きな目標として取り組んでいます。米はほぼ100%に近い割合で自給されていますが、小麦や他の穀物については輸入が多い状況です。国内で生産できる小麦や大豆等については、生産を増やせる環境を作り、米は米粉として活用を考えています。今後、議論を深めていければと思っています。また、畜産物は、飼料が輸入で賄われており、飼料をカウントすると自給率が低くなるので、飼料用米やホールクロップサイレージ等の国産に切り替えていく取組を推進しています。



【質問に答える濱登企画調整室長】

Q2 農業従事者の減少や高齢化、担い手の確保問題に対し、一般消費者に田畑の応援をしてもらえるしくみを作ってもらいたいと思います。行政として支援策はどのようなものがありますか。

A2 ご意見がありました一般消費者が生産者を応援したいという思いや農林水産業に興味を持って頂くことは、「みどりの食料システム戦略」を進める上でも非常に重要なことと考えており、消費・安全対策交付金を活用し、自治体等が実施する農林水産業への理解を増進する農林漁業体験の提供に向けた検討会開催や体験機会の提供についての経費支援を行っています。

そのほかの支援策として、農山漁村振興交付金では地域（農村）が自らの創意工夫により計画を立て、仕組み作りを構築することに対し、市町村や、市町村と生産者をはじめ地域関係者が一体となった協議会が主体となり、地域資源を活用した地域の活性化に向けた取組等への支援を行っています。

○令和4年度予算（消費・安全対策交付金）関連

[https://www.maff.go.jp/j/budget/pdf/r4kettei\\_pr50.pdf](https://www.maff.go.jp/j/budget/pdf/r4kettei_pr50.pdf) （予算）

【予算活用事例】

<https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/torikumi2.html>

<https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/torikumi/attach/pdf/r02-8.pdf>

（令和2年度チャレンジ子ども農業体験事業運営協議会（福井県））

○令和4年度予算（農山漁村振興交付金）関連

[https://www.maff.go.jp/j/budget/pdf/r4kettei\\_pr66.pdf](https://www.maff.go.jp/j/budget/pdf/r4kettei_pr66.pdf)

【予算活用事例】

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/course/index.html>

○参考（福井県の取組）

[https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/021500/chuusankan/support\\_d/fil/001.pdf](https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/021500/chuusankan/support_d/fil/001.pdf)

（福井県「地域農業サポート事業」：作業オペレーター）

<https://www.city.awara.lg.jp/mokuteki/industry/industry03/industry0301/p001829.html>

（あわら市「ねこの手クラブ」：作業全般）

一方、農林水産省では、食と農のつながりの深化に着目した新たな国民運動「食から日本を考える。ニッポンフードシフト」を昨年度から展開しています。

様々なメディアやシンポジウム等を通じて、全国各地の農林漁業者等の取組、地域の食や農山漁村の魅力などを伝えることにより、国産の農林水産物や有機農産物の積極的な選択に向けた行動変容に繋がることを目指し、生産者団体や食品関連事業者等と連携した官民協働による取組を推進しています。

○参考（ニッポンフードシフト）

<https://nippon-food-shift.maff.go.jp/>

<https://nippon-food-shift.maff.go.jp/47prefectures/case19/>（新潟からニッポンフードシフト）

<https://nippon-food-shift.maff.go.jp/47prefectures/case20/>（富山からニッポンフードシフト）

<https://nippon-food-shift.maff.go.jp/47prefectures/case21/>（石川からニッポンフードシフト）

<https://nippon-food-shift.maff.go.jp/47prefectures/case22/>（福井からニッポンフードシフト）

具体的にご要望等がございましたら、別途ご連絡ください。

（ご意見等）

- みどりの食料システム戦略において、低リスク農業への転換で、ネオニコチノイド系の殺虫剤に代わる新規農薬等を開発すると具体的に記載されたことは喜ばしい。同様に一般販売されている除草剤について、生産者というより消費者がよく使う農薬ですので、早く規制に取り組んでほしい。



- 和食文化の輪について、今の日本は、世界中のいろいろな料理を食べられる恵まれた環境下だと思います。その中で、ジャパン（和食）イズナンバーワンでは幅広すぎて、どういうバランスの和食を推奨していくのか明確にさせていただけると理解しやすい。
- みどりの食料システム戦略については、自分たちの活動と関わりがあると思っていますが、まずは知るというところからと思っています。学ぶ場を設定し、活動の方向性を共有していきたいと考えています。
- 食品ロス削減の視点から、ドライ食品では、フードバンクやフードドライブといった取組はありますが、生鮮食品は難しく、規格外の野菜や大量にできた場合、有効活用してコロナ禍で困っている生活困窮者やシングル世帯等の居場所交流の場づくりを社会全体としてできるといいなと思います。
- 石川県での事例ですが、直売所で売れ残ったものを、子ども食堂の方が取りにくるということを実験段階ですが取り組んでいます。直売所周辺の子どもの食堂に声かけをしたらしくみができるのではと思います。

- 一般家庭から出る生ゴミをたい肥化するダンボールコンポストという取組をしていますが、できたたい肥を生産者に使っていただくまでつながっていません。生産者からは、どんなものが入っているのかわからないので、成分が不安であるという声をお聞きします。実際に取り組みされている方からは、野菜くずがほとんどで発酵させるために米ぬかや油、たまにお肉の残りを入れているとのこと。これに、鶏ふん等をまぜればよいたい肥ができるのではないかと思います。
- 8月4日を栄養の日として、3年前から日本栄養士会が「栄養ワンダー」に取り組んでいます。今年（2022年）は、「サステナブルに食べよう」を提案する取組で、今ある自然や資源を維持しながら、健康で安全な暮らしを未来につなげていく提案を全国の管理栄養士から国民や県民のみなさんに提案する取組です。石川県では、栄養のバランス、減塩、適正エネルギー、フレイル予防等を取り上げながら認知・理解を広め、県民の行動変容につなげる取組をしました。

#### 【堀井氏の活動紹介関係】



【生産者の堀井氏】

Q3 オーガニックフェスタ開催にあたり、どのような方法で消費者の皆さんへお知らせしたのですか。

A3 生協、直売所にくる顔なじみの方、自然食品を扱う方、低農薬や有機野菜使用を看板にしているレストラン、マスコミ（新聞、TV、ラジオ（地域版））等です。

Q4 有機米の価格は何割ぐらい高くなりますか。また、より安全、環境に優しいことはわかるのですが、他に良い点はありますか。

A4-1 価格については相対の問題ですが、驚くほど高くはならないです。むしろ有機 JAS のお米は価格が下がっています。以前は一俵（60 kg）4万円ほどでしたが、今は2万5、6千円くらいです。新潟コシヒカリが1万2千円ほどだから1万2、3千円の差になります。スーパーのものと比べれば3割、4割ぐらいになります。

A4-2 有機農業は地域にも優しい。有機農業を進めたことにより I ターンで子育て世代の移住者が増えた地域もあるようです。

Q5 畦草の管理が大変だと思いますが、畑や田んぼの中の除草はどのようにしていますか。

A5 一番良いのは手で取ること、価格は高いですが分解マルチをすること、かきまわして発芽させないこと等千差万別です。草取りを消費者や子供達に体験してもらったり、田全体を紙マルチで覆う方法もあります。

Q6 鶏ふんや牛ふん等発酵させたものを田畑に使用しているとお聞きしたが、大量な鶏ふんや牛ふん等はどのように調達していますか。

A6 平飼い養鶏をされている方が田畑を持っている場合は自給になります。養鶏、養豚、酪農をされている方は、大量の糞尿処理に困っており、一方で、肥料の価格が高騰している今、農家も大変な状況になっていますので、農協がつなぎとなってうまく回していただけると良いと思います。

Q7 有機の野菜を学校給食に取り入れているところはありますか。たくさんの量や食材が必要なので難しいと聞きます。

A7 佐渡市の一部と三条市の一部で取り入れていると聞いています。じゃがいもやたまねぎだと比較的やりやすいですが、雨が多く、蒸し暑いという日本の気象条件のなかで、有機の野菜は難しい状況になると思います。まずは、有機の米から取り入れて、簡単な野菜を取り入れる、佐渡市が幼稚園からはじめたように少量から取り入れる、野菜の産地をねらって取り入れる等の方法が取り組みやすいのではないかと思います。

(ご意見)

にいがたオーガニックフェスタ3会場での取組をお聞きして、いかに情報交換が大事かを感じました。情報交換がうまくできているから様々なアイデアが出て、各会場でいろんな取組ができたのだと思います。食品ロスの取組で、有機野菜の皮を使ってだしをとるというお話は、小さいころから本物の味を知るといことで次世代の食育につながると感じました。

閉会にあたり、北陸農政局佐藤消費・安全調整官から、「有機農業については、みどりの食料システム戦略の中で、2050年までに目指す姿として、取組面積の割合を25%（100万ha）に拡大するとしています。この実現に向けては、需要と供給のバランスが整うようなかたちにしていく必要があります。生産者、事業者、消費者の皆さまが一体となって取り組んでいかなければならないという認識を持っていただき、今できることを行っていただきたい。」と挨拶しました。



【閉会挨拶する佐藤消費・安全調整官】

みどりの食料システム戦略及び食料・農業・農村基本法の検証・見直しについて、詳細を知りたい、学習の場を持ちたい等ありましたら、説明にお伺いしますので北陸農政局又は各県拠点にご連絡ください。

#### 意見交換会出席者

##### 【消費者団体】（19団体、27名）

JA 新潟県女性組織協議会、（公社）新潟県栄養士会  
富山県消費者協会、JA 富山県女性組織協議会、富山県婦人会  
富山県生活協同組合連合会、（公社）富山県栄養士会  
金沢市校下婦人会連絡協議会、石川県生活学校連絡会  
（特非）消費者支援ネットワークいしかわ、JA 石川県女性組織協議会  
石川県生活協同組合連合会、（公社）石川県栄養士会  
JA 福井県女性組織協議会、福井県消費生活研究会  
（公社）ふくい・くらしの研究所、福井県生活協同組合連合会  
福井県消費者グループ連絡協議会、（公社）福井県栄養士会

##### 【地方自治体】

富山県農林水産部農林水産企画課  
石川県農林水産部農業政策課  
福井県農林水産部流通販売課

##### 【講師】

北陸農政局企画調整室長  
生産者（堀井 修氏）

##### 【北陸農政局】

北陸農政局次長  
北陸農政局生産部生産技術環境課課長補佐

北陸農政局消費・安全部長  
北陸農政局消費・安全調整官  
北陸農政局消費・安全部消費生活課長ほか